

自動車レースの「フォーミュラワン(F1)」は、モータースポーツの中でも「一番スゴイやつ」だと思ってもらえばいい。

川喜田研さん

「世界一速い」といわれるF1マシンは三百キロ以上だけれど、「走って」「曲がって」「止まる」という総合力で世界一なんだ。

鈴鹿サーキットの国際レーシングコース(五・八キロ)を一周するラップ

4. 国内最高峰のレース 「フォーミュラ・ニッポン」が1分40秒だから速いよね。

□上■

レーサーだけでなく、チームに五百一六百人

タイムは1分28秒95

月と、終了する十一月を比べると、どんどんマシンを改造するので性能は格段に向上している。

レースはテレビ放映され、世界中で計三億人が観戦するともいわれているんだ。(F1ジャーナリスト川喜田研)

F1マシンに乗せてもらい大喜びの子ども=鈴鹿市御園町の県営鈴鹿スポーツガーデンで

F1日本グランプリが十月に鈴鹿サーキットで再開されるのに合わせ、一月末に鈴鹿サーキットで開かれた小学校。モータースポーツガーテンで開かれた小学校。モータースポーツの魅力を知つてもらおうと、市が主催、川喜田研さん(四三)が分かりやすくF1の魅力を話した。講義の内容を紹介する。

F1の学校から

□中

ジンの強力なパワーを地面上に伝える。止まる際は、よくふんばり、カーでも滑つたりしない。実際に試作タイヤで走

F1のエンジンは八百馬力もあるので、一気にスピードを落として止まる時は、体重の四倍もの加速度が掛かるんだ。シ

エットコースターで目玉が飛び出すような感じかな。四秒あれば、スタートして時速二百キロを出し、ピタッと止まれる。

その秘密の一つがタイヤ。体育館内を走る場合、靴下だと滑ってしまうが、上靴を履くと力が床にうまく伝わる。レース用のタイヤも、粘着テープのように路面に「ネチョ」とくつき、エン

で、ものすごい空気抵抗があり、見えない空気との戦いもある。F1は、最先端技術の塊なんだ。多くの技術者が「なぜだどう」という疑問を追究している。子どもたちに抱いた「なぜ」という疑問を追いかけると、大人になつてF1技術者なれるかもしれないよ。

（F1ジャーナリスト
川喜田研）

タイヤメーカーの技術者とレース用タイヤで遊ぶ子どもたち（1月31日、鈴鹿市御園町の県営鈴鹿スポーツガーデンで）

4秒で時速200キロ→停止



2009・2・5 中日新聞

川喜田さんの話に聞き入る子どもたち=1月31日、鈴鹿市御園町の県営鈴鹿スポーツガーデンで



F1が行われる世界各国を回って取材してきたが、街で出会った人が、その国の印象になってしまふ。例えば、F1がずっと開催されているイタリアのモンツア。レストランで会話がはずむと、イタリアが好きになつてくる。

「鈴鹿」という地名も、驚くほど世界中の人们が知っている。シンズン中、世界十八カ所でしか開催されず、計三億人の人がテレビ観戦するわけだから、「東京」や「大阪」とともに、世界的な知名度は高い。

一つのF1チームには五百一六百人がかかわっていて、いろいろな仕事を分担してレースを支えている。選手ばかりでなくエンジニア、メカニックのほか、コックもいるんだ。

十月にF1日本グランプリが再開される鈴鹿の街のイメージが、そのまま日本のイメージにつながる。

観戦する人ばかりではなく、地域の人たちも自動車レースのお祭りF1を支える重要なメンバーなんだ。(F1ジャーナリスト川喜田研) ■終わり

F1の学校から

□①■

君もお祭りのメンバー